

行政視察報告

委員会名	文教委員会		
視察日	平成29年5月16日(火)		
視察先	鹿児島県始良市		
視察委員	上村 やす子 委員長	峯岸 良至 副委員長	荒井 彰一 委員
	向江 すみえ 委員	秋本 とよえ 委員	中江 秀夫 委員
	米山 真吾 委員	大高 拓 委員	小林 ひとし 委員

調査項目	<p>1 スーパーサイエンス総合推進事業</p> <p>2 モラリティ・インクルーブメント推進事業</p>
事業概要	<p>1 スーパーサイエンス総合推進事業 サイエンスリーダー養成講座や理科研究実践校指定を通じた理科教育の充実などの事業により、科学への興味・関心を高め、科学的な見方や考え方を高めるための取り組みを行っている。</p> <p>2 モラリティ・インクルーブメント推進事業 学校・家庭・地域が協力して、思いやりや感謝の心などの子どもたちの道徳性を高めていく働きかけを意図的・計画的に行う事業を実施している。</p>
視察内容	<p>1 スーパーサイエンス総合推進事業 中高生を対象に、日本の科学界の将来をリードする人材育成を目指す「サイエンスリーダー養成講座」のほか、日常生活と関連した楽しい実験を通じ、科学的な見方や考え方を育成する「サイエンスあいらんど」、理科研究実践校指定を通じた理科教育の充実などの事業により、科学への興味・関心を高め、科学的な見方や考え方を高めるための取り組みを行っている。</p> <p>2 モラリティ・インクルーブメント推進事業 学校・家庭・地域が協力して、思いやりや感謝の心などの子どもたちの道徳性を高めていく働きかけを意図的・計画的に行う事業を行っている。毎年度小学校1校・隔年度中学校1校を実践協力校に指定し実施するモラリティ・インクルーブメント実践発表会では、道徳の時間の公開授業や学校・家庭・地域の3者を交えたワークショップ型意見交換会などを行い、児童生徒のよりよく生きようとする心情や態度をはぐむことをねらいとしている。また、学校と家庭・地域が共に道徳性を育むために、三者代表による協議会を設け、指針となる提言や学校教育活動における道徳教育の重点化や家庭・地域における実践化などに資するものとした、モラリティ・インクルーブメント・ミーティング等の取り組みにより、道徳性が高まっていくことで、「自分を伸ばし、他人を思いやり、よりよい社会をつくっていこうとする心を持って行動できる人」へと子供たちがさらに成長していくことをねらっている。</p>
主な質疑内容	<p>1 スーパーサイエンス総合推進事業について</p> <p>(問) サイエンスリーダーの人選はどのように行い、人数、予算はどうなっているか。</p> <p>(答) 始良市の中高生全員に募集をかけており、毎年希望者が40名程度集まる。人選については、本人の希望で、学校推薦の形はとっていない。予算は一人あたり約8万円かかるが、半額を市が補助している。</p> <p>(問) 一般の理科、科学の授業と重複しない部分は、サイエンスリーダー養成講座に参加した生徒だけが学習できるということか。また、地域の子供達への還元はあるか。</p> <p>(答) 微生物やカルデラなどの地質学・火山学、宇宙など、地域的素材があるものを中心に、大学教授などに講師をしていただいている。希望者のみが受講できるものである。サイエンスリーダー養成講座自体、中高生を対象とした、各分野への入口としての役割を担っており、希望者が自分の関心で、先へ進んでいただくものである。</p> <p>(問) 講座は、中高生が中心ということだが、小学生へのきっかけづくりはどのように行っているか。</p> <p>(答) 講師が大学教授のため、中高生を講座の対象となる。小学生については、6年生が参加できるロボット講座を足掛かりにしている。また、幼稚園児や小学生をメインにした1日かけたサイエンスあいらんどで、興味を持ってもらい、中高生になったらサイエンスリーダー養成講座に参加してもらいたいと考えている。</p> <p>2 モラリティ・インクルーブメント推進事業について</p> <p>(問) モラリティ・インクルーブメント事業で、学校・家庭・地域の協議とあるが、これは一斉に行っているのか、個別に行うのか。また、テーマを定めているのか。</p> <p>(答) 学校でテーマを決めて、地域の方を集め、ワークショップや討論などに取り組んでいる。地域の方が多く参加することが重要だと考えており、公開授業として、消防団の方など、地域の方をゲストティーチャーに招き、討論などを行っている。</p>

行政視察報告

委員会名	文教委員会		
視察日	平成29年5月17日(水)		
視察先	熊本県八代市		
視察委員	上村 やす子 委員長	峯岸 良至 副委員長	荒井 彰一 委員
	向江 すみえ 委員	秋本 とよえ 委員	中江 秀夫 委員
	米山 真吾 委員	大高 拓 委員	小林 ひとし 委員

調査項目	<p>1 熊本地震発生後の学校現場について</p> <p>2 教育サポートセンター</p>
事業概要	<p>1 熊本地震発生後の学校現場について 平成28年熊本地震では、8日間の臨時休校の対応をとった。児童生徒の心のケアのため、各校独自のアンケートや「心と体のチェックリスト」を活用し、全職員で児童生徒理解に努めた。</p> <p>2 教育サポートセンター 教育課題解決のための研究事業や教職員の資質向上を支援する事業、子どもたちの豊かな心の育みや確かな学力の定着を支援する事業の他、「特別支援教育相談事業」「やつしろ子ども支援相談室」等の相談事業を実施し、教育現場のニーズに応える事業を展開している。</p>
視察内容	<p>1 熊本地震発生後の学校現場について</p> <p>(1) 臨時休校による授業時数確保のための対応措置</p> <p>(2) 児童生徒の心のケア</p> <p>(3) 連絡体制、避難所、児童・生徒への対応、施設面・避難訓練について</p> <p>(4) 今後の課題</p> <p>2 教育サポートセンター</p> <p>(1) 教育サポートセンターの機能</p> <p>(2) 教育サポーター、子ども支援相談員、特別支援教育アドバイザーの利用状況</p> <p>(3) 教職員に対する研修内容</p> <p>(4) 特別支援教育研究部会での成果の活用状況</p>
主な質疑内容	<p>1 熊本地震発生後の学校現場について</p> <p>(問) 今現在も心のサポートのケアを続けているのか。</p> <p>(答) 引き続きアンケートを実施し、状況を把握している。発生直後と比較するとケアが必要な児童・生徒の数は少なくなっている。</p> <p>(問) 地震後の家庭訪問を行った際の確認項目は何か。</p> <p>(答) 各学校が独自に項目を作成しているため、市がすべて把握していないが、被害状況、子供のけがを中心に、現在の状況を学校の管理職が一覧で確認できる内容で実施した。</p> <p>(問) 反省点として一斉メールの配信の仕方を教頭だけが知っているという事があげられていたが、現在は改善されているのか。また、改善の時点で個人情報の保護については、どのように考慮されたのか。</p> <p>(答) 個人情報が含まれているため、管理職がアドレスの管理を行っている。各学校マニュアルの見直しを行い、より実践的な内容に改めることを9月までに行う予定である。また、研修の中で他校との情報交換を行う予定である。</p> <p>(問) 臨時休校の8日間である程度見通しをたてているようだが、誰がどのような形で判断をしたのか。</p> <p>(答) 避難者の減り具合、余震の減り具合を見て、最終的に市長が判断を行った。</p> <p>2 教育サポートセンター</p> <p>(問) 教職員に対する研修で、ほめるトレーニングとあったが、良かった点と反省すべき点があれば教えてほしい。</p> <p>(答) 教員に子供の見る目を変えてもらいたいということで、行っている。例えば落ち着いた子供に「ちゃんとして」という声掛けではなく、「5分集中できたね。」というような内容に変えるなど、どんな言い方があるかということを生方同士でトレーニングし、このように言われると嬉しいということを体験してもらい、学級経営に役立ててもらっている。</p>